

伝統行事

あおいまつり

葵祭

団体名 葵祭行列協賛会
実施日 5月15日
場所 京都御所～下鴨神社～上賀茂神社

葵祭は、日本の祭のなかでも王朝風俗の伝統を伝え、その起源は欽明天皇のころ、五穀豊穰を祈って行われたのが始まりで5月15日に行われる。



ぎおんまつり

祇園祭

団体名 祇園祭協賛会
実施日 7月17日(前祭)、7月24日(後祭)
場所 四条烏丸～四条河原町～河原町御池～新町御池

日本三大祭のひとつで、その歴史は古く平安時代に京で疫病の退散を祈って、66本の鉾をつくらせ、それを神泉苑に送ったのが始まりといわれる。毎年7月17日の前祭、24日の後祭の山鉾巡行を中心に7月1日から31日まで諸行事が行われる。

ユネスコ無形文化遺産登録



きょうとごさん おくりび

京都五山送り火

団体名 京都五山送り火協賛会
実施日 8月16日
場所 京都五山送り火各山

京都の送り火の起源は、仏教が庶民の間に浸透した中世室町以後といわれ、再び冥府にかえる精霊を送る仏教行事である。本行事は、大文字、松ヶ崎妙法、船形万灯籠、左大文字、鳥居形松明の各送り火が毎年8月16日に点火される。



じだいまつり

時代祭

団体名 時代祭協賛会
実施日 10月22日
場所 京都御所～平安神宮

明治28年平安遷都1100年記念祭が行われたときから始められた行事。京都が都であった千年間の文化風俗の変遷、時代ごとの有名人物などで行列をくみ、都大路を練り歩く。



さが おたいまつ

嵯峨お松明

団体名 嵯峨御松明保存会
実施日 3月15日
場 所 清凉寺(京都市右京区)

当行事は、「嵯峨の柱松明」とも呼ばれ、釈迦の涅槃会にあわせて行われる火の行事である。松の枯枝などを藤づるで結びつけて組んだ高さ約 7m余りの 3 基の柱松明が作られ、護摩木の火をうつしたわら束で火が点火されると大火柱となる。この行事は、釈迦の荼毘をしのぶものとされているが、地元では 3 基の柱松明を早稲、中稲、晩稲にたとえ、その燃え方でその年の豊凶を占うともいわれている。



かも けいば

賀茂競馬

団体名 賀茂競馬保存会
実施日 5月5日
場 所 賀茂別雷神社(上賀茂神社)(京都市北区)

葵祭の前儀に行われる行事で、寛治 7 年(1093)に宮中武徳殿の式を上賀茂に移し、奉納されたことに由来すると伝えられる。馬を走らせ競うだけでなく、乗馬の流儀、菖蒲の根合わせの儀式や装束などに古い形態がみられる。5月1日には、馬の毛並みや遅速などを調べ、競馬の番立を決める足汰式がおこなわれる。



ふじの もりじん じゃか けうま

藤森神社駈馬

団体名 藤森神社駈馬保存会
実施日 5月5日
場 所 藤森神社(京都市伏見区)

早良親王が、天応元年(781 年)に陸奥の反乱に対し征討將軍の勅を受けて、藤森神社に祝誓出陣した際、擬勢を象ったもので、藤森祭の駈馬神事として執行されている。戦場の馬術を再現した曲乗が演じられる。



ただす の もりや ぶさめ

糺の森流鏑馬

団体名 糺の森流鏑馬神事等保存会
実施日 5月3日
場 所 賀茂御祖神社(下鴨神社)(京都市左京区)

騎手が馬を走らせながら鏑矢を射る行事。平安時代より公家、武家の間でおこなわれ、鎌倉時代に最も盛んになり、様々な流儀や作法が生まれた。衣冠巻纓に行騰姿、背に箆を負い、鏑矢を差した射手が的を次々に射ながら馬場を疾走する。



くらまたけきりえ
鞍馬竹伐り会

団体名 鞍馬山竹伐り会式保存会
実施日 6月20日
場所 鞍馬寺(京都市左京区)

平安時代、峯延上人が鞍馬山で修行中、現れた大蛇を法力で退治したという故事にちなんで始められたと伝えられる。鞍馬法師姿で、丹波座と近江座に別れて大蛇にみたてた青竹を山刀で素早く断ち切り、その早さを競いあうことで豊凶を占うとされている。



まつ あ げ
松 上 げ

松上げは、全国的に分布する柱松行事の一形態とされ、京都市内では洛北の花背、広河原、久多、雲ヶ畑等に伝わり、愛宕山への献火行事として、火除け、五穀豊穡を祈願しておこなわれている。

花背松上げ

団体名 花脊松上げ保存会
実施日 8月15日
場所 京都市左京区花背



ひろがわら
広河原松上げ

団体名 広河原松上げ保存会
実施日 8月24日
場所 京都市左京区広河原



おじお
小塩上げ松

団体名 小塩上げ松保存会
実施日 8月24日
場所 京都市右京区京北小塩



くもがはた
雲ヶ畑松上げ

団体名 雲ヶ畑松上げ保存会
実施日 8月24日
場所 京都市北区雲ヶ畑



からすすもう

鳥相撲

団体名 鳥相撲保存会重陽社
実施日 9月9日
場所 賀茂別雷神社(上賀茂神社)(京都市北区)

当行事は、上賀茂神社の年中行事の重陽神事とともに行われる。カアカアと鳥鳴きをする神事後、まわし姿の氏子の少年たちにより相撲の取組みが行われ、前日の夜には、内取式が行われる。



にしのきょうずいきみこし

西之京瑞饋神輿

団体名 西ノ京瑞饋神輿保存会
実施日 10月1日～4日
場所 北野天満宮(京都市上京区) 北野天満宮御旅所(京都市中京区)

瑞饋神輿巡行は、北野天満宮の瑞饋祭で9月1日より1ヶ月間かけて瑞饋神輿を作り上げ、10月1日より3日まで北野天満宮御旅所にて子ども神輿ともども公開し、4日午後氏子区域を巡行する。神輿の屋根はすべて「ずいき」(里芋の茎)で造られ毎年趣向が凝らされる。



きたしらかわたかもりごく

北白川高盛御供

団体名 北白川伝統文化保存会
実施日 9月30日・10月1日
場所 北白川天神宮(京都市左京区)

北白川天神宮に伝わる神饌を奉納する行事。神饌は、カワラケの皿に、味噌をつなぎとした小芋、大根なます、きざみするめや白飯などの供物をのせるもので、夜を徹して作られる。翌朝に白川女姿の女性が、これらの神饌を頭上にのせて行列し、神前に供える。



ひ の はだかおどり

日野裸踊

団体名 日野裸踊保存会
実施日 1月14日
場所 法界寺(京都市伏見区)

その年の無病息災、五穀豊穡を祈願し、精進潔斎した禪姿の男達が、阿弥陀堂縁にて両手を上げ「ちょうらい(頂礼)」「ちょうらい」と掛声を発しながら背と背を互いに激しくぶつけ合い踊りを奉納する。



くらま ひまつり

鞍馬火祭

団 体 名 鞍馬火祭保存会
実 施 日 10 日 22 日
場 所 由岐神社(京都市左京区)

鞍馬由岐神社の祭礼行事。社伝によると、もと内裏に安置されていた靱社を、天慶 3 年(940)勧請するに際し、地元では松明を持って供奉し、道筋にかがり火を焚いて迎えたという故事にならって始められたと伝えられる。大小の松明をかついで「サイレイ、サイリョウ」の掛け声とともに鞍馬の街道を練り歩く様子は、壮観な火の行事として知られる。



松尾祭桂川舟渡御

団 体 名 松尾祭桂川舟渡し保存会
実 施 日 4 月 21 日
場 所 京都市西京区嵐山 桂離宮西右岸より桂大橋左岸

当行事は、松尾大社の松尾祭の神幸祭で、神霊を遷した 6 基の約 1 トンの大きい神輿をそれぞれ神舟にのせ、桂川を渡御する勇壮な舟渡し行事である。

